

浜の活力再生プラン

令和 6 ～ 1 0 年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	風間浦地区地域水産業再生委員会
代表者名	木村 正則（風間浦漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	風間浦漁業協同組合（下風呂支所、易国間本所、蛇浦支所） 風間浦村 下北地方水産事務所
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	○地域の範囲 風間浦漁協（下風呂支所、易国間本所、蛇浦支所）地区		
	○漁業種類別経営体数		
		下風呂支所	易国間本所
		蛇 浦支所	
	一本釣漁業	20	33
	イカ釣	17	9
	採介藻漁業	69	84
	小型定置漁業	0	2
	刺網漁業	9	5
	底建網漁業	0	0
	罎漁業	15	14
	延縄漁業	3	3
	その他の漁業	0	17
		10	
※一経営体により複数の漁業が営まれており明確に区分ができないため延べ経営体数により計上 （令和 6 年 3 月 3 1 日現在、組合員数 2 5 9 名）			

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

風間浦村は本州最北端青森県下北半島の西北部に位置する津軽海峡側に面した地区で、下風呂温泉による観光業と、イカ類や豊富な磯資源を中心とした水産業によって栄えてきた。

当地区において水産業は基幹産業であり、いか釣り漁業、一本釣り漁業、小型定置漁業、刺網漁業及び採介藻漁業を中心として営まれている。過去 5 ヶ年平均の水揚げは、数量 571 t、金額 3 億 5,915 万円であるが、うちスルメイカの水揚げは、数量 145 t、金額 9,877 万円となっており、これは地区全体数量の 25.4 %、金額の 27.5%を占める。

また、アンコウや、ヤリイカ、タコのほか、コンブ、フノリ、ウニ等の磯根資源も豊富であり、スルメイカ以外の魚種への依存度も高くなっている。

特にアンコウについては、平成 26 年度に「風間浦鮫鰯」として地域団体商標に登録され、ブランド化へ向けた取り組みが行われている。

しかしながら近年、主要魚種であるスルメイカの来遊量の減少、全般的な魚価の低迷、加えて燃油高や資材高騰などによる経営コストの増加により、水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

漁獲物の取引は各支所で行われるが、易国間本所は昭和 58 年、蛇浦支所 59 年から使用し、施設が古く漁獲物の鮮度の低下が著しいことから大規模改修が急務となっている。

漁業就業者数については減少しているうえ、高齢化による生産量の低下が懸念されている。さらに、漁業経営が維持できない等の理由から後継者不足が問題となっており、地域の水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

上記の状況から地先資源の回復、漁獲物の付加価値向上、低コストで効率の良い漁業活動の推進に取り組むとともに、中核的漁業者の育成を図っていく必要がある。

(2) その他の関連する現状等

本州最北端に位置する当地区は、主要都市への輸送に時間がかかり、販路拡大が難しい地域になっている。

また、幹線道路が一本しかなく、東日本大震災及び当地域を襲った令和 3 年 8 月の大雨災害時には長期間の通行止めによる孤立状態が続き、物流及び漁業にも甚大な影響を与えている。

地域の人口は平成 25 年 2,291 人、平成 30 年 1,961 人、令和 5 年 1,654 人と 10 年間で 637 人 (27.8%) 減少している。漁業においても後継者不足により全ての漁業種類において漁業者の高齢化が進んでおり、今後、漁業者が減少することによる漁業生産への影響も懸念されている。(人口データ：住民基本台帳)

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

第2期浜プランに引き続き、以下の取組を実施して所得向上を図る。

①ウニの密度管理やコンブの縦縄式養殖による藻場の再生の継続を図る。

(対象漁法：採介藻漁業)

②アンコウの資源管理の継続を図る。

(対象漁法：刺網漁業、小型定置漁業)

③漁獲物の付加価値向上による漁業収入の増加の継続を図る。

(対象漁法：いか釣り漁業、一本釣り漁業、刺網漁業、小型定置漁業)

④観光業との連携による販売促進の継続を図る。

(対象漁法：いか釣り漁業、刺網漁業、小型定置漁業、採介藻漁業)

⑤燃油コストの削減の継続を図る。

(対象漁法：いか釣り漁業、一本釣り漁業、刺網漁業)

(3) 資源管理に係る取組

青森県海面漁業調整規則、漁業権行使規則、青森県資源管理指針、風間浦漁業協同組合の資源管理協定

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和 6 年度） 所得向上率（基準年比） 2.8 %

漁業収入向上のための取組	1) 漁獲物の付加価値向上の取組 ○スルメイカ ・漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）や溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、水抜き穴のある魚箱に、昼間作業であるために懸念される直射日光よけのためシートを被せ保冷性を高めるよう努める。 また、活イカでの出荷を増やし箱及び氷代金の削減を図るとともに、漁協婦人部の協力のもと、活締め急速冷凍出荷をし付加価値を高める。 ○アンコウ ・12月～3月の間に漁獲されるアンコウについて、陸揚げ後の胃内容物等の除去に加えて、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 ① 5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。また、「風間浦鮫鰯」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 ② 2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下を抑制する。 2) 資源管理の取組 ・アンコウについて、未成熟である 2 kg 未満魚を再放流する。 ・水タコについて、未成熟である 3 kg 未満を再放流する。 3) 販売促進に向けた取組 ・風間浦村が主催する「ゆかい村海鮮どんぶりまつり」、「風間浦鮫鰯祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、下風呂温泉にきた観光客を含めた県外の一般来訪者への試食会や水産物販売のほか、新たな料理方法の紹介や加工品販売を行うとともに、アンケート等を行い、消費者ニーズの把握に努める。併せて、漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大に努める。 4) 磯焼け対策に関わる取組 ・ウニの移植による密度管理を実施する。 ・空ウニが密集している漁場に養殖生産したコンブを投入し、身入りの改善を図る ・コンブの種糸（130m×21本）を巻き付け、ロープを海底に設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。
漁業コスト削減のための取組	1) 船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は船底・舵・プロペラ等を洗浄研磨するなど船底清掃等を実施し、船体の抵抗を削減するとともに、減速航行に努め消費燃料の削減を図る。 2) スルメイカ 活イカでの出荷体制の確立を目指し、魚箱及び氷の使用量を削減する。

漁村の活性化のための取組	・漁業者は漁協・村・商工会と連携し、風間浦村が主催する「海鮮どんぶり祭り」「風間浦鮫鯨祭り」「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、地元での海産物の消費拡大に努める。 ・村の協力のもと、「活イカ備蓄センター」の有効活用を図る。
活用する支援措置等	・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）4.9%

漁業収入向上のための取組	1) 漁獲物の付加価値向上の取組 ○スルメイカ ・漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）や溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、水抜き穴のある魚箱に、昼間作業であるために懸念される直射日光よけのためシートを被せ保冷性を高めるよう努める。 - また、活イカでの出荷を増やし箱及び氷代金の削減を図るとともに、漁協婦人部の協力のもと、活締め急速冷凍出荷をし付加価値を高める。 ○アンコウ ・12月～3月の間に漁獲されるアンコウについて、陸揚げ後の胃内容物等の除去に加えて、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 ① 5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。また、「風間浦鮫鯨」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 ② 2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下を抑制する。 2) 資源管理の取組 ・アンコウについて、未成熟である2kg未満魚を再放流する。 ・水タコについて、未成熟である3kg未満を再放流する。 3) 販売促進に向けた取組 ・風間浦村が主催する「ゆかい村海鮮どんぶりまつり」、「風間浦鮫鯨祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、下風呂温泉にきた観光客を含めた県外の一般来訪者への試食会や水産物販売のほか、新たな料理方法の紹介や加工品販売を行うとともに、アンケート等を行い、消費者ニーズの把握に努める。併せて、漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大に努める。 4) 磯焼け対策に関わる取組 ・ウニの移植による密度管理を実施する。 ・空ウニが密集している漁場に養殖生産したコンブを投入し、身入りの改善を図る ・コンブの種糸（130m×21本）を巻き付け、ロープを海底に設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。
--------------	--

漁業コスト削減 のための取組	1)船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は船底・舵・プロペラ等を洗浄研磨するなど船底清掃等を実施し、船体の抵抗を削減するとともに、減速航行に努め消費燃料の削減を図る。 2)スルメイカ 活イカでの出荷体制の確立を目指し、魚箱及び氷の使用量を削減する。
漁村の活性化の ための取組	・漁業者は漁協・村・商工会と連携し、風間浦村が主催する「海鮮どんぶり祭り」「風間浦鮫鯨祭り」「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、地元での海産物の消費拡大に努める。 ・村の協力のもと、「活イカ備蓄センター」の有効活用を図る。
活用する支援措 置等	・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）

3 年目（令和 8 年度） 所得向上率（基準年比） 7. 0 %

漁業収入向上の ための取組	1) 漁獲物の付加価値向上の取組 ○スルメイカ ・漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）や溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、水抜き穴のある魚箱に、昼間作業であるために懸念される直射日光よけのためシートを被せ保冷性を高めるよう努める。 - また、活イカでの出荷を増やし箱及び氷代金の削減を図るとともに、漁協婦人部の協力のもと、活締め急速冷凍出荷をし付加価値を高める。 ○アンコウ ・12月～3月の間に漁獲されるアンコウについて、陸揚げ後の胃内容物等の除去に加えて、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 ① 5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。また、「風間浦鮫鯨」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 ② 2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下を抑制する。 2) 資源管理の取組 ・アンコウについて、未成熟である 2 kg 未満魚を再放流する。 ・水タコについて、未成熟である 3 kg 未満を再放流する。 3) 販売促進に向けた取組 ・風間浦村が主催する「ゆかい村海鮮どんぶりまつり」、「風間浦鮫鯨祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、下風呂温泉にきた観光客を含めた県外の一般来訪者への試食会や水産物販売のほか、新たな料理方法の紹介や加工品販売を行うとともに、アンケート等を行い、消費者ニーズの把握に努める。併せて、漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大に努める。 4) 磯焼け対策に関わる取組 ・ウニの移植による密度管理を実施する。 ・空ウニが密集している漁場に養殖生産したコンブを投入し、身入りの改善を図る ・コンブの種糸（130m×21本）を巻き付け、ロープを海底に設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。
------------------	---

漁業コスト削減のための取組	1)船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は船底・舵・プロペラ等を洗浄研磨するなど船底清掃等を実施し、船体の抵抗を削減するとともに、減速航行に努め消費燃料の削減を図る。 2)スルメイカ 活イカでの出荷体制の確立を目指し、魚箱及び氷の使用量を削減する。
漁村の活性化のための取組	・漁業者は漁協・村・商工会と連携し、風間浦村が主催する「海鮮どんぶり祭り」「風間浦鮫鯨祭り」「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、地元での海産物の消費拡大に努める。 ・村の協力のもと、「活イカ備蓄センター」の有効活用を図る。
活用する支援措置等	・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）9.1%

漁業収入向上のための取組	1) 漁獲物の付加価値向上の取組 ○スルメイカ ・漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）や溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、水抜き穴のある魚箱に、昼間作業であるために懸念される直射日光よけのためシートを被せ保冷性を高めるよう努める。 また、活イカでの出荷を増やし箱及び氷代金の削減を図るとともに、漁協婦人部の協力のもと、活締め急速冷凍出荷をし付加価値を高める。 ○アンコウ ・12月～3月の間に漁獲されるアンコウについて、陸揚げ後の胃内容物等の除去に加えて、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 ① 5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。また、「風間浦鮫鯨」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 ② 2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下を抑制する。 2) 資源管理の取組 ・アンコウについて、未成熟である2kg未満魚を再放流する。 ・水タコについて、未成熟である3kg未満を再放流する。 3) 販売促進に向けた取組 ・風間浦村が主催する「ゆかい村海鮮どんぶりまつり」、「風間浦鮫鯨祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、下風呂温泉にきた観光客を含めた県外の一般来訪者への試食会や水産物販売のほか、新たな料理方法の紹介や加工品販売を行うとともに、アンケート等を行い、消費者ニーズの把握に努める。併せて、漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大に努める。 4) 磯焼け対策に関わる取組 ・ウニの移植による密度管理を実施する。 ・空ウニが密集している漁場に養殖生産したコンブを投入し、身入りの改善を図る ・コンブの種糸（130m×21本）を巻き付け、ロープを海底に設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	1)船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は船底・舵・プロペラ等を洗浄研磨するなど船底清掃等を実施し、船体の抵抗を削減するとともに、減速航行に努め消費燃料の削減を図る。 2)スルメイカ 活イカでの出荷体制の確立を目指し、魚箱及び氷の使用量を削減する。
漁村の活性化のための取組	・漁業者は漁協・村・商工会と連携し、風間浦村が主催する「海鮮どんぶり祭り」「風間浦鮫鯨祭り」「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、地元での海産物の消費拡大に努める。 ・村の協力のもと、「活イカ備蓄センター」の有効活用を図る。
活用する支援措置等	・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）

5 年目（令和 1 0 年度） 所得向上率（基準年比） 1 1. 2 %

漁業収入向上のための取組	1) 漁獲物の付加価値向上の取組 ○スルメイカ ・漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）や溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、水抜き穴のある魚箱に、昼間作業であるために懸念される直射日光よけのためシートを被せ保冷性を高めるよう努める。 また、活イカでの出荷を増やし箱及び氷代金の削減を図るとともに、漁協婦人部の協力のもと、活締め急速冷凍出荷をし付加価値を高める。 ○アンコウ ・12月～3月の間に漁獲されるアンコウについて、陸揚げ後の胃内容物等の除去に加えて、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 ① 5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。また、「風間浦鮫鯨」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 ② 2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下を抑制する。 2) 資源管理の取組 ・アンコウについて、未成熟である 2 kg未満魚を再放流する。 ・水タコについて、未成熟である 3 kg未満を再放流する。 3) 販売促進に向けた取組 ・風間浦村が主催する「ゆかい村海鮮どんぶりまつり」、「風間浦鮫鯨祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、下風呂温泉にきた観光客を含めた県外の一般来訪者への試食会や水産物販売のほか、新たな料理方法の紹介や加工品販売を行うとともに、アンケート等を行い、消費者ニーズの把握に努める。併せて、漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大に努める。 4) 磯焼け対策に関わる取組 ・ウニの移植による密度管理を実施する。 ・空ウニが密集している漁場に養殖生産したコンブを投入し、身入りの改善を図る ・コンブの種糸（1 3 0 m×2 1 本）を巻き付け、ロープを海底に設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。
--------------	--

漁業コスト削減 のための取組	1)船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は船底・舵・プロペラ等を洗浄研磨するなど船底清掃等を実施し、船体の抵抗を削減するとともに、減速航行に努め消費燃料の削減を図る。 2)スルメイカ 活イカでの出荷体制の確立を目指し、魚箱及び氷の使用量を削減する。
漁村の活性化の ための取組	・漁業者は漁協・村・商工会と連携し、風間浦村が主催する「海鮮どんぶり祭り」「風間浦鮫鯨祭り」「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、地元での海産物の消費拡大に努める。 ・村の協力のもと、「活イカ備蓄センター」の有効活用を図る。
活用する支援措 置等	・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）

（５）関係機関との連携

青森県農林水産部水産局水産振興課、むつ水産事務所、（地独）青森県産業技術センター下北ブランド研究所及び水産総合研究所から指導を受け、年度毎に、漁業所得の向上面について、定量的に分析・評価を行う。 また、問題点については原因を調査し、解決に向けた課題整理を行う。 鮫鯨については、北海道大学大学院水産科学院資源生物室の協力の下、生態の調査を行う。

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を自ら評価し、それを踏まえた取り組みの改善を検討するため、委員会は、浜プラン評価検討委員会を開催し、その結果を３月末に行われる風間浦漁業協同組合総会（会員会議）に報告・審議し決定する。 なお、浜プラン評価検討委員会の構成員は、①組合理事・監事９名、②外部専門家２名、③担当者会議構成員とし、アドバイザーとして、上記（５）の関係機関に意見を伺い評価・分析を行う。

４ 目標

（１）所得目標

漁業者の総所得 の向上10%以上		

（２）上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

魚価単価の向上	基準年	平成30年度～平成4年度の5中3平均：：	581	円/kg
	目標年	令和10年度：	613	円/kg

交流人口数の増加	基準年	令和4・5年度平均2,040人 ・ゆかい村海鮮どんぶり祭り 1,500人/年 ・風間浦鮫鯨祭り 500人/年 ・フノリ採り体験ツアー 40人/年
	目標年	令和6年度～10年度平均2,250人 ・ゆかい村海鮮どんぶり祭り 1,650人/年 ・風間浦鮫鯨祭り 550人/年 ・フノリ採り体験ツアー 50人/年

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

○魚価単価の向上 前期浜プラン期間中、漁獲物の迅速な箱詰め、低温管理による鮮度保持向上、活魚出荷による付加価値向上により、魚価単価の向上が図られたところである。今期浜プランにおいても、他の環境に左右されぬよう上記取組を継続する必要がある。よって、基準年は平成30年度～令和4年度の5中3平均単価581円を基準とし、最終年度は平均単価613円（5.5%向上）を目指す。 ○交流人口数の増加 過去の交流人口数は、年平均2,040人となっており、イベントでのPR活動による付加価値向上につながっている。新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント中止の年もあったが、令和6年度以降の目標としては、観光業と連携し、年平均2,250人（10%向上）を目指す。取組内容に即した現実的な計算を行っており、妥当な目標設定であると判断した。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業（国）	藻場の再生活動（ウニの密度管理、海藻の種苗投入）（国）
水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）	・荷捌き所の改修（漁獲物の鮮度維持） ・中間育成施設の改修（ウニ・ナマコの間中育成による所得向上） ・出荷施設の改修（活イカ水槽及び活締め急速冷凍出荷施設の新設）